第62回広島県小学校教育研究会健康教育部会研究大会

令和７年12月５日（金）
コジマホールディングス西区民文化センター

小学校における保健教育・安全教育・食育に関する専門性を高め、健康教育の推進を図ることを趣意とし、「健康教育の組織的取組の充実をめざして」を研究テーマに、第62回研究大会を開催いたしました。県内各地より総勢235名の参加をいただき、有意義な研究大会となりました。

【講演】

「　学校教育における食育の推進について　」

講師　兵庫県たつの市立小宅小学校　校長　清久　利和　様
（前文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課食育調査官）

「食は大切」「食は楽しい」ということを念頭に、各教科と関連付けながら、児童生徒の実態に合わせた、学校教育全体における食育の推進について、実際にクイズやパドレットを使用した参加型の講演をしていただきました。

生涯にわたって健康な生活を送ることができるようにするためには、生活習慣予防や体づくりについての意識を高めることが大切である。そのために、「食は大切、食は楽しい」ということを発達段階に応じて学級活動、朝の会、給食の時間などの機会をとらえて取組を実施し、食に関する意識を高め、関心を持ち、将来の自己管理能力といった自立したときに発揮できる力を育てていくことが重要である。そのために教職員ができることは授業づくりである。

〇これから求められる資質・能力と食育の方向性
今、子どもたちに求められているのは、主体性と自己決定である。主体的に判断しながら自己決定する力を身に付けるためには、教科を越えた全ての学習の基盤である言語能力と情報活用能力を育んでいくことが重要である。食育も例外ではない。そのためにも、文部科学省が推進しているように、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図り、主体的・対話的で深い学びへつなげていくことが大切である。予想される子どもたちの学びや成長のための方向性は、①探究的な学びの推進　②教育の情報化のさらなる進展　③小→総合的な学習、中→技術・情報科　④学習の基盤となる資質・能力の整理　⑤学習指導要領の一層の構造化、精選　⑥教育課程の弾力化　⑦調整授業時数制度（40分授業など）　⑧「学びに向かう力、人間性」の評価とされている。

〇食育を充実させるために
保健教育・安全教育・食育は、児童が心身ともに健康で安全な生活を送るための、学校における健康教育の３領域から成り立っている。食に関する指導の内容の三体系は、「教科等における食に関する指導　給食の時間における食に関する指導　個別的な相談指導」である。教科等における食に関する指導は、例えばクイズ形式にして、社会科や家庭科、理科など、様々な教科を関連付けることで、学びが深くなる。１人で行うのではなく、養護教諭と栄養教諭が連携するなど、学校として組織的に行うことが大切である。「１人の100歩より、100人の１歩」である。給食の時間における食に関する指導では、学校給食に地場産物や、郷土食・行事食を提供し、これらについて指導を行うことで、地域の文化や伝統に対する理解と関心を深める等、高い教育効果が期待できる。個別的な相談指導は、授業や学級活動など、全体での指導では解決できない健康に関係した個別性の高い課題について改善を促すために実施する。対象の児童の行動変容を促し、改善、あるいは、より良好な生活を行うための習慣を獲得できるよう進めていく必要がある。

今回の講演から得たことをもとに、自ら目標設定し、今後の教育活動に取り組んでほしい。

【実践発表１】

「　学校・地域の連携による防災教育
～自分を守る！みんなで守る！防災プロジェクト～　」

広島市立落合小学校　　教諭　　水田　雄基

【指導助言】　　広島市教育委員会　学校教育部健康教育課　　指導主事　石井　徹

（取組について）

・落合小学校区は平成 26 年８月 20 日の広島豪雨災害において近隣地域で多大の被害がもたらされた地域である。そこで学校・地域の連携による防災教育に取り組んでいる。
・「自分を守る！みんなで守る！防災プロジェクト」と題し、児童自らが探求の過程を通して得た知識や情報、既に得ている知識や体験などを自分で取捨選択し、整理・構造化し身に付け学習している。
・地域の防災士の話を聞き、児童自ら地域を歩き回って危険個所を知ったり、防災マップを作成したり、様々な体験活動を行った上で、防災フェスタで学習した内容を発表し防災意識を高めている。
・児童が体験し学んだことを家庭に持ち帰り、自然災害に対する備えについて話し合いをもっている。
・防災は人と人とのつながりが大切である。「自分を守る」個人の防災から、地域全体への防災へとつなげ、「みんなで守る」ためにも協力し合える町のコミュニティが大切であることを学んでいる。

（今後について）

・防災教育は、学校実態に応じて学習内容を考えることができ、学区での学びは児童が自分事としてとらえやすい内容である。また、ねらいを明確にし、地域人材を効果的に活用することは、学校安全の推進にもつながっているため防災教育に生かしてほしい。
・他教科ともつなげて計画・実践することで、さらに防災教育を深めて取り組んでほしい。

【実践発表２】

「　主体的に健康づくりに取り組む児童の育成
～生活習慣の大切さを伝える取組を通して～　」

江田島市立切串小学校　　養護教諭　　前田　莉那
江田島市立江田島小学校　　養護教諭　　山本　喜代
江田島市立中町小学校　　養護教諭　　井上　真弓

【指導助言】　　広島文化学園大学　人間健康学部スポーツ健康福祉学科　　講師　寺西　明子

（取組について）

・「生活リズムカードの取組」がマンネリ化している課題に対して、どのように組織として考えていくのがよいのか研修を重ねている。
・児童が健康づくりを自分事として考えていくために、実態把握をしっかり行っている。
・各校ともに地域性や生活習慣の背景の違いに着目し、各校の実態に応じた生活リズムカードを作成して、取り組んでいる。
・取組を始める際に、ＩＣＴや保健委員会の活用、地域連携等による集団保健指導を行うとともに、気になる児童に個別指導を行っている。
・各校での実態に応じた取組を行った結果、児童自身が各自の課題に主体的に取り組んでいる。

（今後について）

・各校での児童の実態を的確に把握し、やらされている取組ではなく、自分を見つめ、意欲を持って取り組めるように、深化していくことを期待したい。
・気になる児童に対して背景をどのようにとらえるのか、保護者と協力し、校内組織で役割分担をして取り組みながら、ＳＳＷや家庭センターとも連携を進めてほしい。
・子供の自立のために今、必要な力は何かを考えること、今、取り組んでいることに対して視点を変えて工夫すること、参観日等を活用して保護者へ啓発することなど、負担なく継続していくことこそ自立を支えることにつながるのではないか。